

# 2020年9月期 第2四半期決算説明



## 【免責事項】

本資料に記載されている予測、見通し、戦略およびその他歴史的事実ではないものは、当グループが資料作成時点で入手可能な情報を基としており、その情報の正確性を保証するものではありません。これらは経済環境、経営環境の変動などにより、予想と大きく異なる可能性があります。

株式会社ユーグレナ

2020年5月

この度新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方に  
哀悼の意を申し上げますとともに、ご遺族の方には謹んでお悔やみ  
申し上げます。また、罹患された方やご家族、関係者の皆様には  
心よりお見舞い申し上げます。

また、医療機関や行政機関の方々など、感染拡大防止に日々ご尽力されて  
いる皆様、社会インフラを支えてくださる皆様へ深く感謝申し上げます。

ユーグレナは今後も「人と地球を健康にする」という経営理念をもとに  
ますます多くの方にユーグレナ・クロレラを届けていくことで  
皆様の健康に役立てて頂けたらと考えております。

一日も早い収束と、皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。

株式会社ユーグレナ

<b>2020年9月期第2四半期決算</b>	<b>P4</b>
<b>ヘルスケア事業の進捗</b>	<b>P9</b>
<b>エネルギー・環境事業の進捗</b>	<b>P24</b>
<b>通期業績予想修正</b>	<b>P28</b>
<b>新型コロナウイルス感染症の当社グループ対応について</b>	<b>P32</b>
<b>サステナビリティ推進に向けた取り組み</b>	<b>P35</b>
<b>補足資料</b>	

# 2020年9月期 第2四半期決算

## 2020年9月期上半期実績

期首方針のとおり短期的な収益を追わず、広告投資の厳格化、マーケティング施策準備、事業基盤整備に注力

(百万円)	2019/9期上半期実績		2020/9期 上半期実績	2020/9期 通期業績予想 (前回発表)
	一括費用計上※ 含む	一括費用計上 除く		
売上高	6,919	6,919	6,081	13,300
営業利益	△6,523	△153	△360	△1,200
経常利益	△6,356	15	△137	△850
親会社株主に 帰属する 当期純利益	△6,456	△86	△143	△900

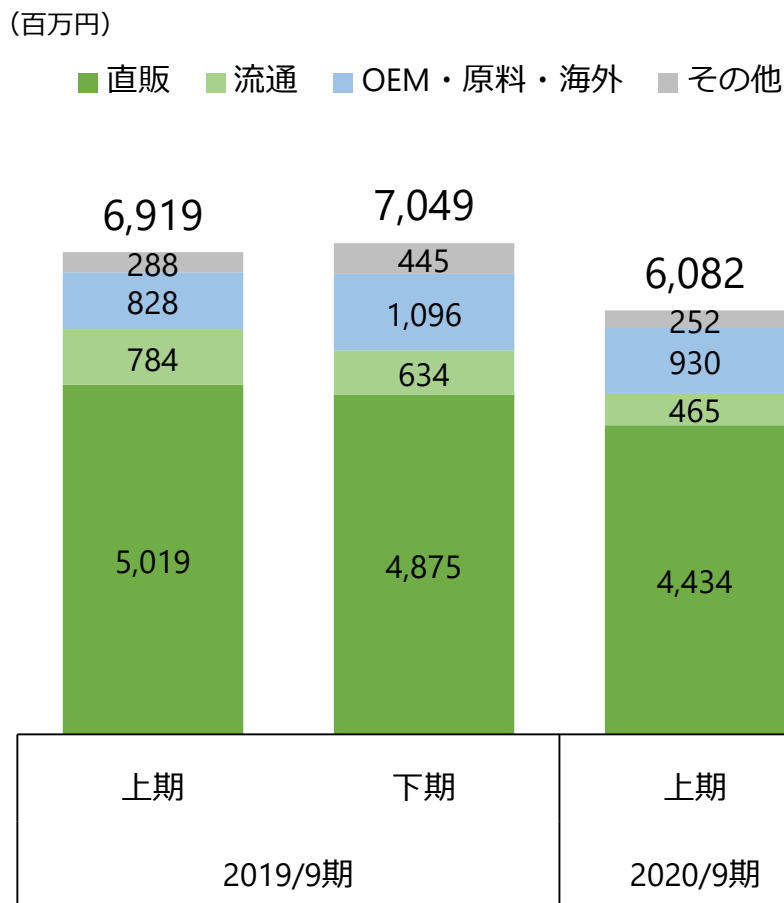
※バイオ燃料製造実証プラントの建設関連費用: 6,370百万円

注: 上記は決算短信に合わせ百万円未満を切捨てて記載しております。他のページのチャート、テーブルの記載値は百万円未満を四捨五入しているため、一部数値が一致しない場合があります。

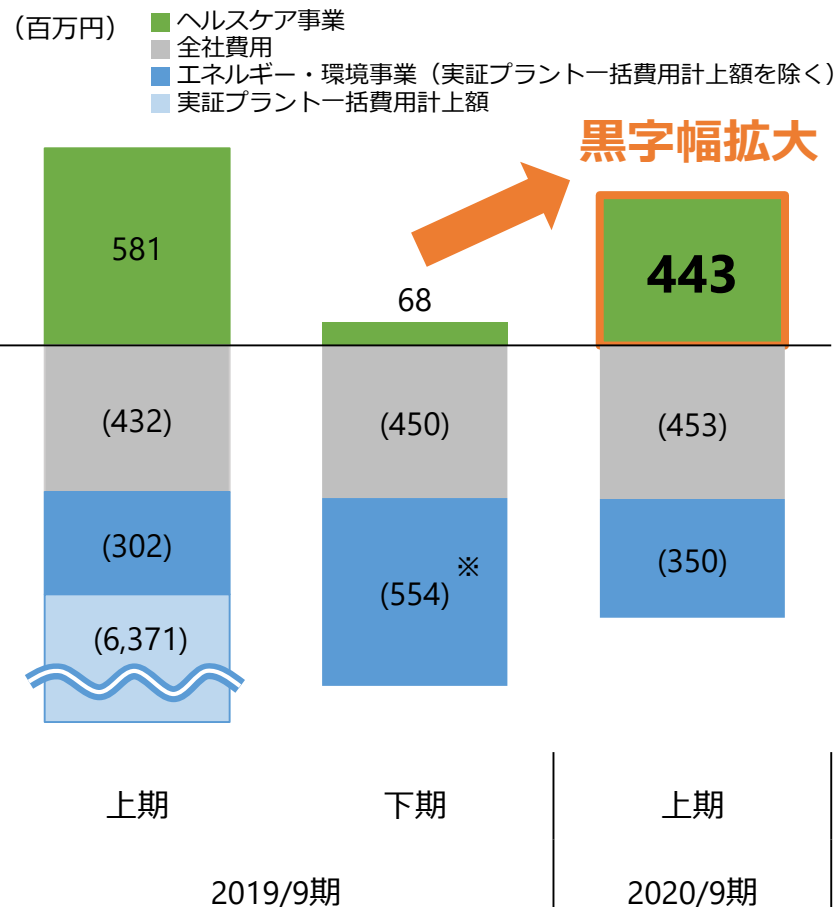
# 売上構造推移、セグメント別損益

広告投資の厳格化により、足許の売上は減少するも、  
ヘルスケア事業のセグメント損益は黒字幅を大幅拡大

## 売上高構造推移



## セグメント別損益



※ 実証プラントの定期修繕により費用拡大、毎年夏季に実施予定

# 販売費及び一般管理費、EBITDA

広告宣伝投資の採算管理厳格化に加えて、固定費コントロールも強化し、**営業キャッシュフロー（EBITDA）を改善**

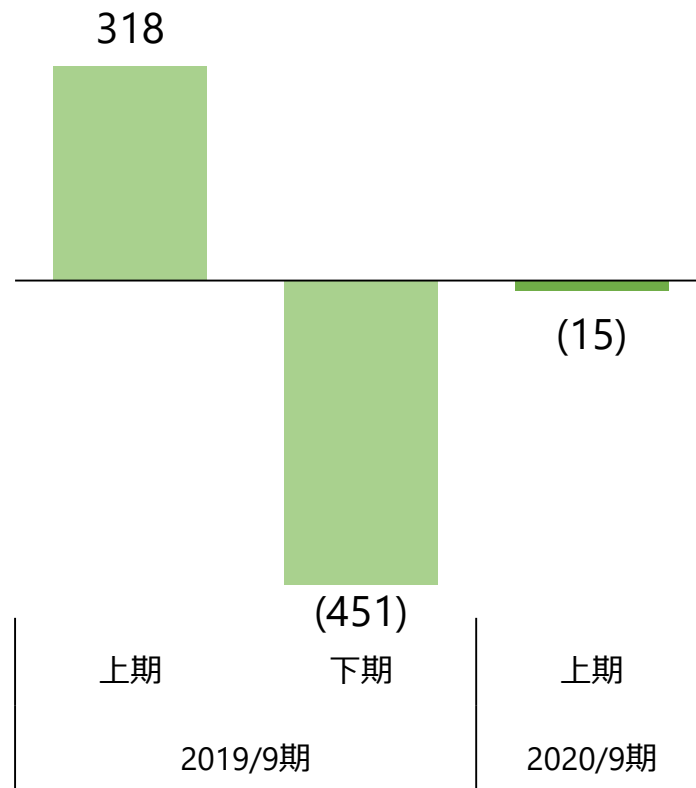
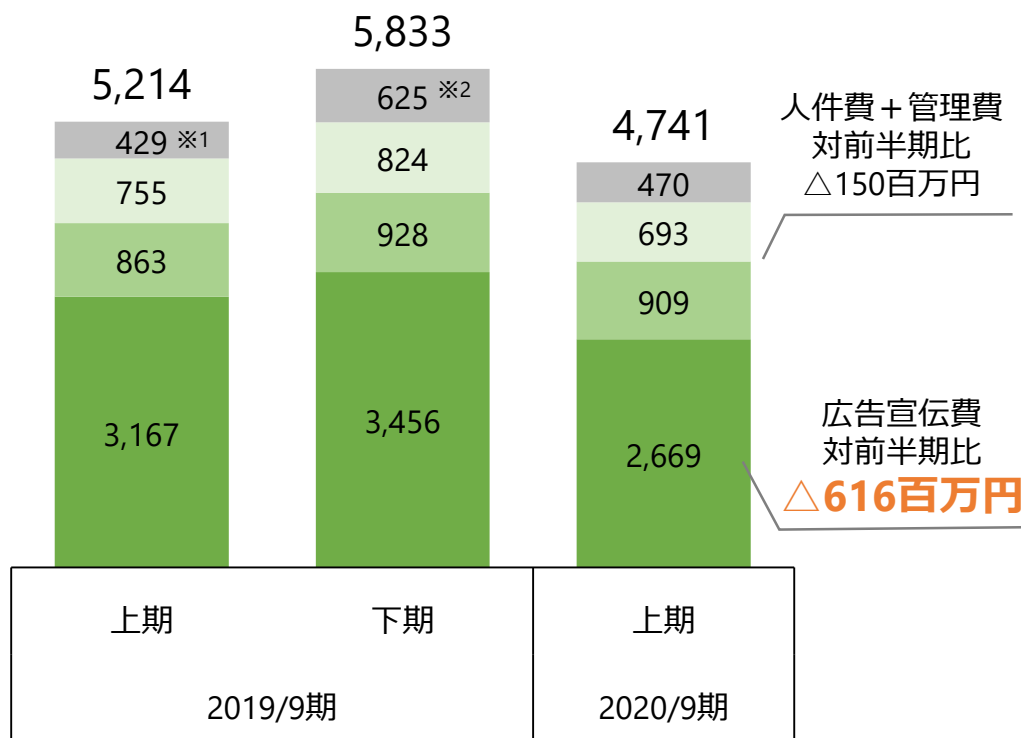
## 販売費及び一般管理費

## EBITDA

(百万円)

(百万円)

■ 販売費 ■ 人件費 ■ 管理費 ■ 研究開発費



※1 実証プラント引き渡しに伴う一括費用計上額を除いた数値

※2 実証プラントの定期修繕により費用拡大、毎年夏季に実施予定

# 2020年9月期上半期ハイライトと下半期の展望

## 上半期

### ヘルスケア事業

#### ■ 直販のKPIが改善

- 広告投資の採算管理厳格化が完了
- 有期間定期顧客比率増でLTVが改善
- 外出自粛でオフライン広告・CRMも好調
- 化粧品定期顧客数は純増に

#### ■ 主力食品商品をリニューアル

- 「からだにユーグレナ」ブランドに統一
- 訴求便益を3要素に整理
- 下半期のマーケティング展開準備が完了

### エネルギー・環境事業

#### ■ 次世代バイオディーゼル燃料の供給開始/売上計上

#### コロナウイルスの影響と対策

- 徹底した固定費削減
- 強固な財務状況を維持
  - 現預金残高71億円、純資産107億円

## 下半期

### ヘルスケア事業

#### ■ 絶好の成長投資機会が到来

- 通販需要・健康商品需要の高まりは当社に追い風

#### ■ 好機を逃さず、機動的な広告投資を推進

- 厳格な採算管理のもと、LTV>CPOとなる領域では積極的に投資を実施
- ユーグレナ素材の便益は足元の消費者ニーズにマッチ

### エネルギー・環境事業

- バイオ燃料の製造・供給拡大は関係者の状況に応じ柔軟に対応



# ヘルスケア事業の進捗

# 絶好の投資機会が到来

1. 直販KPIが改善、  
投資拡大に向けて準備万端
2. 免疫訴求商品に対する  
需要増に応える積極的な  
販促投資を実施

からだに  
ユ-グレナ  
サイクル



# 2020年9月期のヘルスケア事業方針 (2019年本決算資料より再掲)

上半期は期初に掲げた事業戦略を実行、短期的売上成長・利益確保は追求せず、**持続的成長に向けた素材/ブランディング/事業基盤整備に投資比重をシフト**

## 1 課題/機会

ユーグレナ食品  
の低い認知率

素材への  
フォーカス

- メーカーとしての素材開発、機能性研究の強化
- **便益の特定と認知向上施策の展開**
- 全販路展開による「国民的素材」化

## 2 課題/機会

企業/素材/商品間の  
ブランド連携不足

ブランディングへ  
広告比重シフト

- 持続的成長につながる「企業/素材/商品ブランディング」への投資を拡大
- **短期的な直販広告投資を縮小、KPI厳格化**

## 3 課題/機会

獲得チャネル/  
顧客層の偏り

事業基盤整備

- マーケティング/CRM/事業管理における**デジタル化推進**
- ロイヤルカスタマー育成施策の拡大

# 絶好の投資機会が到来

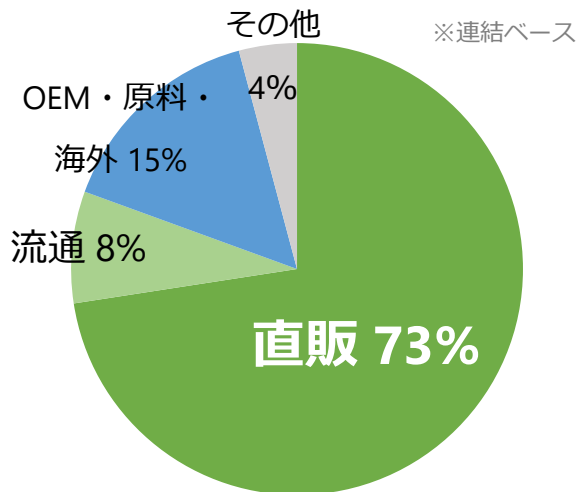
- 1. 直販KPIが改善、  
投資拡大に向けて準備万端**
2. 免疫訴求商品に対する  
需要増に応える積極的な  
販促投資を実施

からだに  
ユ-グレナ  
サイクル



# 新型コロナウイルス感染症影響に耐性の高いビジネスモデル

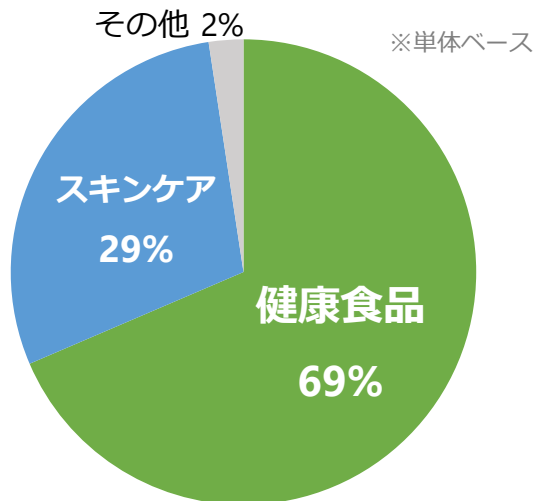
## 販売チャネル別



## ■ 売上高 7 割超を占める 直販チャネルへの追い風

- 外出自粛によって通信販売への需要は増加
- 在宅率上昇に伴いテレビ通販の広告効率が改善

## 商品カテゴリー別



## ■ 同 約 7 割の健康食品への需要増

- 健康志向の高まりにより、免疫訴求商品への需要増
- 外出機会の減少による化粧品の消費減少トレンドの中、当社主力のスキンケア商品は生活必需品のため影響が軽微

# 上半期における直販KPIの改善

## 主要な直販KPIが軒並み改善、 LTV>CPOとなる広告投資拡大の準備が完了

LTV



CPO

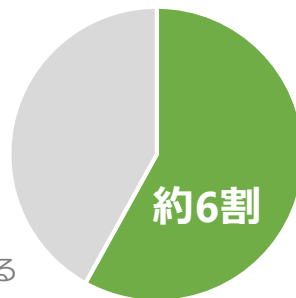


- 在宅率増による顧客受電率の改善
- 有期間定期比率増による継続率の改善

- 採算管理厳格化による不採算投資の撤廃
- 在宅率増によるオフライン広告・CRMの獲得効率改善

新規獲得顧客  
における  
有期間定期  
コース\*の  
選択比率

2019年9月



大幅  
改善

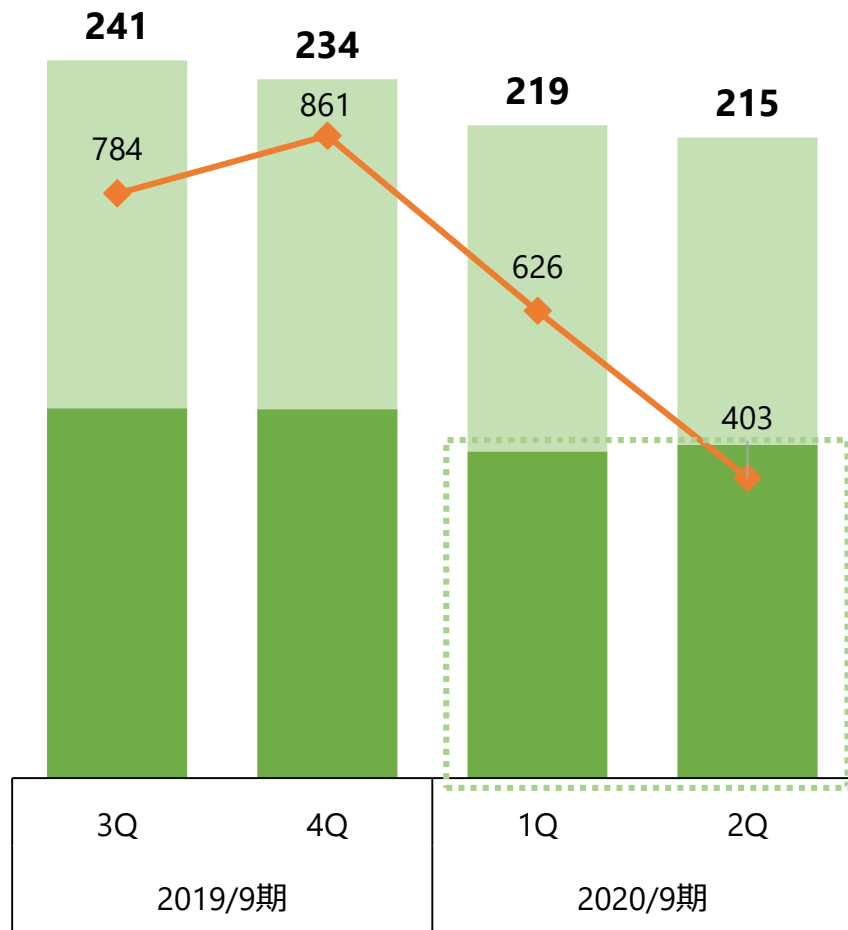
2020年3月



※ ユーグレナ社直販における  
3か月/6か月コースを対象

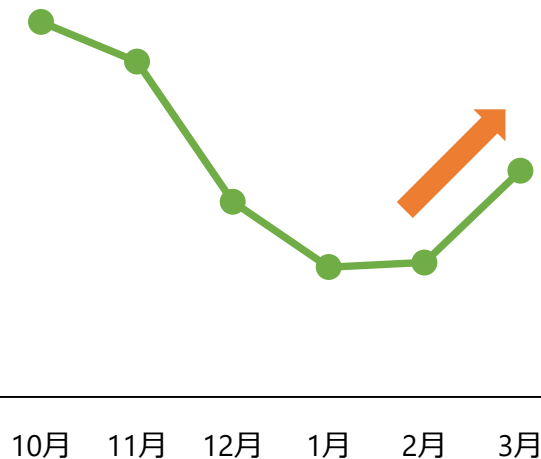
# 定期購入者数推移

- 定期購入者数：食品（千人）
- 定期購入者数：化粧品（千人）
- 広告宣伝費（百万円）



広告宣伝費を絞る中、  
主要KPIの改善により、  
化粧品定期購入者数が  
**純増に好転**

化粧品定期顧客数の月次推移



# 絶好の投資機会が到来

1. 直販KPIが改善、  
投資拡大に向けて準備万端
2. 免疫訴求商品に対する  
需要増に応える積極的な  
販促投資を実施

からだに  
ユ-グレナ  
サイクル





# 主力食品商品群のリニューアル：「からだにユーグレナ」

訴求便益コンセプトの設定とブランドイメージの統一が完了、主力食品商品群を「からだにユーグレナ」としてリニューアル

## ① 訴求便益コンセプト

からだに  
ユーグレナ  
サイクル

つくる  
まもる  
はたらく

カラダの健康は、細胞から。  
石垣島ユーグレナは、藻の仲間。人間に大切な栄養素を持つ、可能性に満ちたスーパーフードです。細胞壁を持たないため、栄養吸収率も高い特徴があります。毎日変わる細胞に、毎日の石垣島ユーグレナ。

医師100人中96人が「勧めたい」と評価しました。(AskDoctors調べ)

Ask Doctors  
医師の推奨意向  
96%  
確認済み商品

## ② ブランドイメージの統一



## ③ 下半期より本格的なプロモーションを開始

## ① 訴求便益コンセプトの設定

豊富な栄養素、心身の疲れにくさ、免疫機能の3要素を一連のサイクルとして体感可能な訴求便益として設定

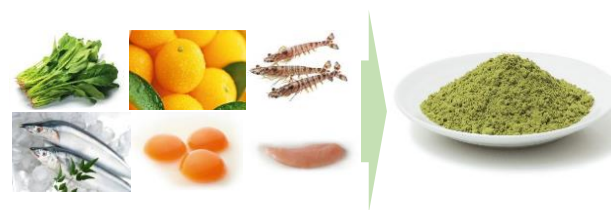


# ① 訴求便益コンセプトを支える研究成果

ユーグレナ素材の特徴や過去の研究成果を踏まえて、  
素材の訴求便益コンセプトを設定

## 59種の栄養素

- ユーグレナは肉に多く含まれるアミノ酸、魚に多く含まれる不飽和脂肪酸、野菜に多く含まれるビタミン・ミネラルなど**59種の栄養素をバランスよく含む**



写真はイメージ

ユーグレナ粉末

## 心身の 疲れにくさ

- ヒト臨床試験により、ユーグレナの継続摂取が**脳の状態に効果的に寄与**することを確認 (2019.5.28 発表)
  - ① 脳細胞の増加に不可欠なたんぱく質である血中のBDNFの上昇
  - ② 脳からの指令で身体が動く速度（認知機能速度・運動速度）の向上
  - ③ 健康関連 QOL（生活の質）としての心の健康スコアの改善

## 免疫機能UP

- ユーグレナ特有成分パラミロンの継続摂取による**免疫バランス調整機能**を示唆、特許出願) (2014.4.17 発表)
- ユーグレナの継続摂取により、**免疫伝達物質の産生が促進され、インフルエンザ症状が緩和**される効果示唆を確認 (2017.11.1 発表)



ユーグレナの特有成分パラミロン  
撮影：青山学院大学 福岡伸一教授

# ① 訴求便益コンセプトを支える研究成果

上半期に免疫機能に関する新たな研究成果を発表  
これまでの研究成果を紹介する特設ページも開設

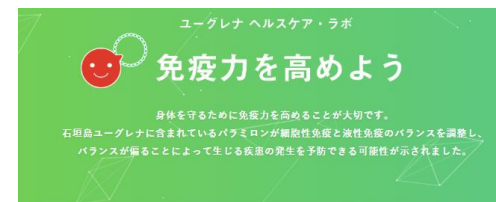
## ユーグレナの 免疫細胞への 作用を確認

- 東京医科歯科大学との共同研究により、微細藻類ユーグレナおよび特有成分パラミロンの腸管における影響を観察し、食シグナル\*として**免疫細胞や神経細胞に作用**することを示唆する研究結果を確認
- 研究成果は、「日本農芸化学会 2020 年度大会」で発表し、優秀発表に選出

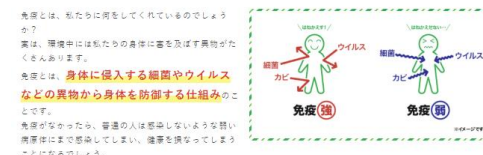
## 免疫機能に 関する 紹介ページを 特設

- ユーグレナ及び各種素材の健康機能情報や最新の研究成果について情報発信するサイト『ユーグレナ・ヘルスケア・ラボ』にて、**ユーグレナの免疫機能に関する研究成果の紹介ページを特設**

<https://www.euglena.jp/lp/meneki/>



ψ 免疫は、私たちを守る戦士



※ 細胞内に情報伝達を活性化する食品成分のこと。細胞内カルシウム濃度を指標としている

## ② ブランドイメージの統一

今後のプロモーション効果の最大化を目的として、  
分散していた主力食品商品群のブランドイメージを統一

直販主力商品

euglena online



『からだにユーグレナ』シリーズ



流通主力商品



### ③ 下半期からの本格的なプロモーション展開

素材・便益認知から購入・体感までの一貫した販促プロセスを構築、**素材や商品への接触機会を増やす広告・販促を強化**



**免疫訴求商品に対する需要拡大を追い風として、  
下半期より積極的な先行投資を実施**



# 絶好の投資機会が到来

1. 直販KPIが改善、  
投資拡大に向けて準備万端
2. 免疫訴求商品に対する  
需要増に応える積極的な  
販促投資を実施

からだに  
ユ-グレナ  
サイクル



# エネルギー・環境事業の進捗



# 次世代バイオディーゼル燃料の新規供給先

## 次世代バイオディーゼル燃料の供給開始

いすゞ自動車および川崎鶴見臨港バスで使用

### いすゞ自動車

- 2020年4月1日より、いすゞの藤沢工場シャトルバスにて燃料使用を開始
- 2014年7月より、次世代バイオディーゼル燃料の実用化に向けDeuSEL®プロジェクト※1を共に取り組んできた成果



いすゞ自動車のシャトルバス

### 川崎鶴見臨港バス

- 2020年3月28日より、鶴見駅～横浜市内を走行する路線バスにて燃料使用を開始
- 廃食油※3回収に協力する横浜市の小学生が「大人になっても残したい自然」をテーマに描いた絵をバスのラッピングに使用



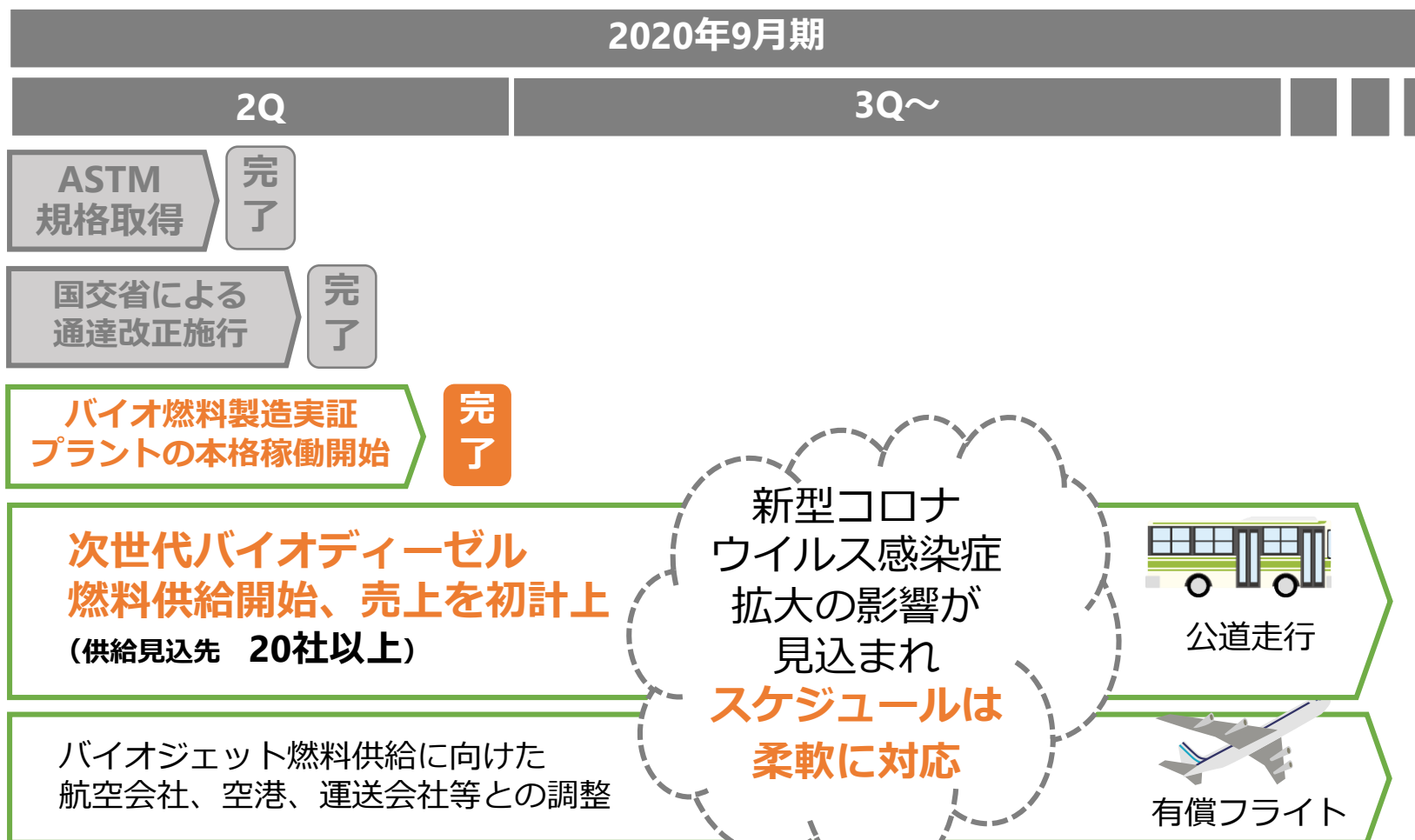
川崎鶴見臨港バスの路線バス

※1 DIESEL（ディーゼル）とeuglena（ユーグレナ）を組み合わせた造語で、ユーグレナ（和名：ミドリムシ）からつくったバイオディーゼル燃料を表すいすゞ自動車社とユーグレナ社の共同で取得した商標

※2 「日本をバイオ燃料先進国にする」を合言葉にした宣言 ※3 次世代バイオディーゼル燃料の原料の一部に廃食油を使用

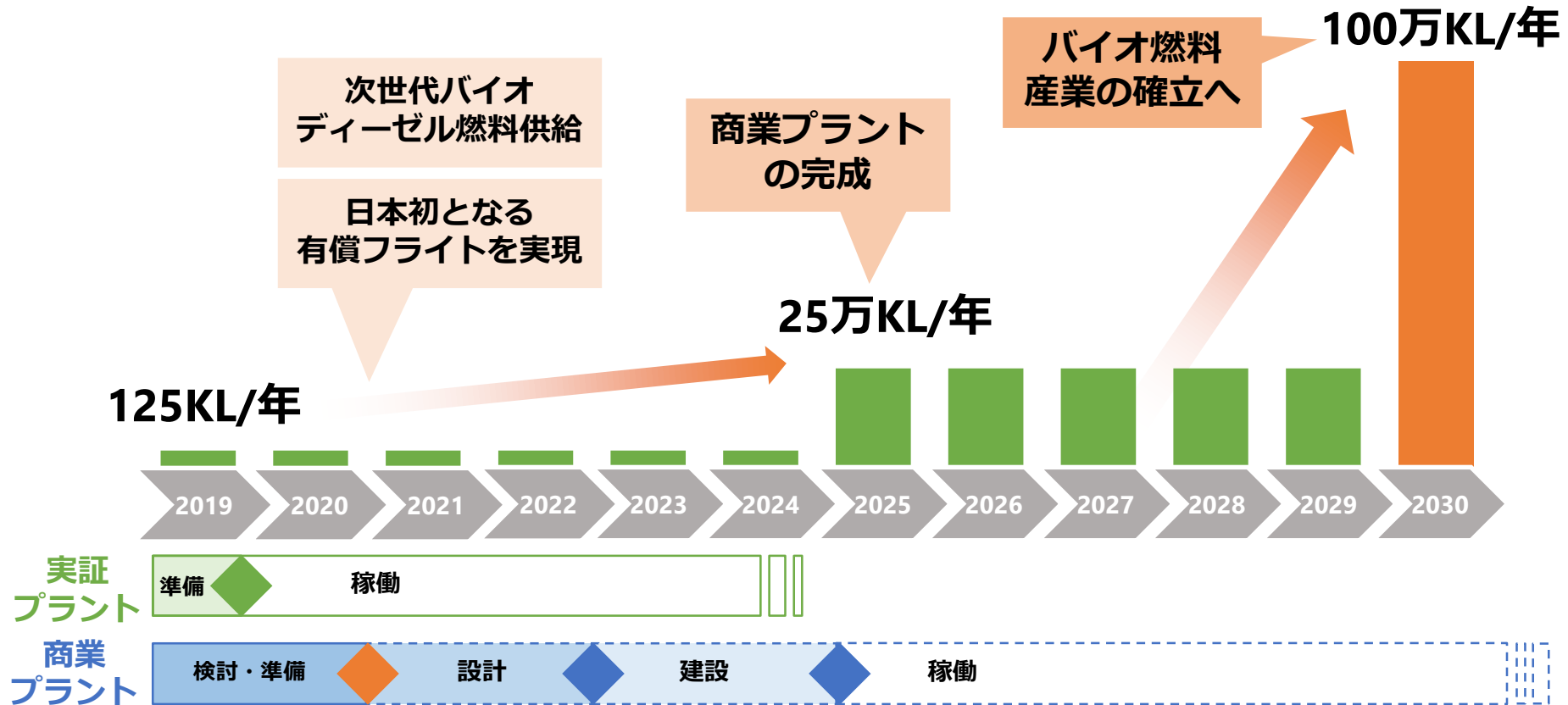
# バイオ燃料の実用化に向けたロードマップ

2020年3月、次世代バイオディーゼル燃料の供給開始。  
有償フライト実現の方針は変更せず、新型コロナウイルス感染症に関する関係者の状況に配慮し、スケジュールは柔軟に対応



# バイオ燃料製造・供給の商業化に向けて (2019年9月期本決算説明資料より再掲)

実証プラントの稼働データ獲得と並行して、商業プラント設計開始に向けた準備を推進。**2020年中に設計開始を判断予定**



**商業プラント設計開始に向け、立地候補地調査や事業パートナー候補との協議を実施中**

# 通期業績予想の修正

## 通期業績予想の修正

下半期業績が機動的な広告投資の進捗度合に左右されること、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が依然不透明なことを勘案し、通期業績予想を取り下げて未定に修正

(百万円)	2020/9期 上半期実績	2020/9期 通期業績予想 (前回発表)	2020/9期 通期業績予想 (今回修正)
売上高	6,081	13,300	—
営業利益	△360	△1,200	—
経常利益	△137	△850	—
親会社株主に 帰属する 当期純利益	△143	△900	—

注：上記は決算短信に合わせ百万円未満を切捨てて記載しております。他のページのチャート、テーブルの記載値は百万円未満を四捨五入しているため、一部数値が一致しない場合があります。

# 業績予想修正の要因—業績に与える影響

広告宣伝の投資進捗により業績が変動し、新型コロナウイルス感染症拡大の今後の影響も不透明

## 下期業績における不透明要因

### ○プラス要因



定期顧客増

KPI改善、免疫訴求商品のニーズ拡大を背景に、持続的な利益成長のため、厳格な採算管理に基づいて積極的な広告投資を実施



売上/収益増

新型コロナウイルス感染症拡大による健康意識の高まり、免疫への需要増による当社グループ商品へのニーズ拡大

### ○マイナス要因



コスト増

LTV>CPOとなる領域での投資が順調に拡大した場合、下半期は営業赤字が拡大（来期の黒字化で投資回収見込み）



売上/収益減

卸先の店舗での来客減、営業自粛により、リピート注文が減少  
外出自粛の長期化により、卸先や新規先への営業機会が減少



売上/収益減

中国は3月中は一部営業停止、現在は再開  
竹富エビ養殖は市況悪化が影響

# 業績予想修正の要因—直販における機動的な広告投資

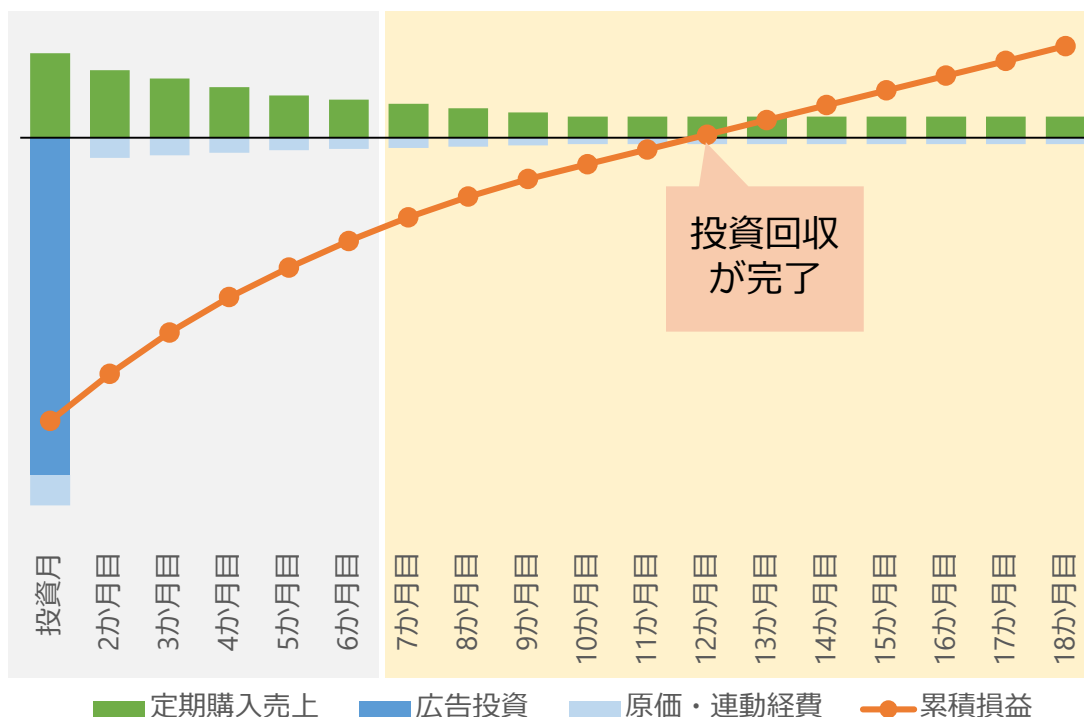
持続的な利益成長のために、会計上の期間損益に囚われず、採算が見込める広告投資を継続して積上げる

## 定期購入モデルの収支イメージ（12か月投資回収の場合）

下半期に実施する広告投資の回収期間は最長6か月のため、期中損益は赤字が先行



初期投資の費用計上が完了しているため、翌期は期初から利益計上に寄与



下半期は固定的な投資予算額を設定せず、厳格な採算管理に基づき、広告投資額を柔軟にコントロールする方針で、業績予想は困難

投資が順調に拡大した場合、下半期は営業赤字が拡大し、**来期の黒字化に寄与**

注：上図はモデルケースでの解説であり、当社のヘルスケア事業の現状を表すものではありません。

# 新型コロナウイルス感染症の 当社グループ対応について



# 新型コロナウイルス感染症に対する全社的な取り組み

事業活動継続に向けてテレワーク対応を2月より推進  
従業員及び家族の健康と生活支援に向けた施策も拡充

実施事項	詳細
全グループでの テレワーク対応	<ul style="list-style-type: none"><li>■ グループの全従業員及び家族の健康を第一に考え、各拠点において<b>原則出社禁止</b></li><li>■ 国内外の<b>出張原則禁止</b></li><li>■ 半期に1回実施する全社会議を<b>オンラインで実施</b></li></ul>
マスク配布	<ul style="list-style-type: none"><li>■ マスクが不足する従業員や家族に対しマスクを配布</li></ul>
福利厚生ポイントの 利活用	<ul style="list-style-type: none"><li>■ テレワーク環境整備費用を福利厚生ポイントにて補助</li></ul>
ベビーシッター 利用料補助	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 「内閣府企業主導型ベビーシッター利用者支援事業」に登録。対象児童がいる家庭で補助を利用可能に</li></ul>

# 新型コロナウイルス感染症に対する当社グループの支援

最前線で活躍する医療従事者や、業務負荷が高まっている保育園関係者の健康を支援するべく、ユーグレナ商品を提供

提供先	提供商品
<ul style="list-style-type: none"> <li>医療機関</li> <li>保育園</li> <li>We Support※</li> </ul>	からだにユーグレナ green powder (旧『ユーグレナの緑汁』、石垣島ユーグレナ入り粉末ドリンク)
	からだにユーグレナ green smoothie (旧『飲むユーグレナ』、石垣島ユーグレナ入りドリンク)
	SPURT (石垣島ユーグレナ入りゼリー飲料)

旧パッケージ



旧パッケージ



※ オイシックス・ラ・大地株式会社、一般社団法人 RCF、ココネット株式会社（セイノーホールディングスグループ）が連携、実施する食料支援プラットフォーム <https://www.oisixradaichi.co.jp/news/posts/wesupport/>

# サステナビリティ推進 に向けた取り組み

# 当社のサステナビリティに関する考え方

サステナビリティをSDGsとESGに分解し、事業を通じたSDGs達成に加え、**持続的な事業活動を支えるESG経営の強化を開始**

## SDGs/ESG※に対する考え方



## 当社の現状

主力のヘルスケア事業をはじめ、気候変動問題の解決策となる**バイオ燃料事業**、**バングラデシュの栄養問題解決に寄与するソーシャルビジネス**など**事業を通じたSDGs達成には積極的に活動中**

今後、ESGに関する方針や目標を設定し、持続的な企業経営の基礎となる**ESGに対応した経営基盤構築を目指す**

※ SDGs：2015年に国際連合によって制定された持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）の略語。17の目標と目標達成のための169のターゲットで構成  
ESG：環境、社会、ガバナンス（Environment, Social, Governance）の略語。企業の長期的な成長のために必要な観点

# サステナビリティに関するウェブサイトを開設

サステナビリティに対する社会からの関心増加に伴い、**ユーグレナのSDGs/ESGに関する取り組みを体系的に開示**

## 開示の背景

サステナビリティに対する  
社会からの関心が増加

### 投資家

財務面の成長だけでなく、**環境に配慮した事業**や**社員の働きやすさ**が、中長期的な成長の源泉と評価するESG投資※1が増加

### 消費者

**環境や社会に貢献する企業/ブランドを重視**して、商品を選択するエシカル消費※2が増加

## ウェブサイトの内容

SDGs達成に寄与する  
現在の事業活動の紹介に加え、**ESGに関するページを新設**※3

事業活動を支えるESG経営の重要課題

事業活動はさまざまな地球の恵みやステークホルダーに支えられています。当社グループは、環境、社会、ガバナンス（ESG）に対応した持続可能な経営基盤を構築してまいります。

<p>Environment（環境）</p>  <p>▶ 環境負荷の軽減</p> <p>詳しくはこちら</p>	<p>Social（社会）</p>  <p>▶ 持続可能な商品供給の実現 ▶ 多様な仲間が働きやすい職場づくり ▶ ステークホルダー・エンゲージメント</p> <p>詳しくはこちら</p>	<p>Governance（ガバナンス）</p>  <p>▶ 経営基盤の強化</p> <p>詳しくはこちら</p>
---	--	---

※1 従来の財務情報だけでなく、環境（Environment）・社会（Social）・ガバナンス（Governance）要素も考慮した投資のこと

※2 人や社会、地球環境、地域に配慮した考え方や行動

※3 URL：<https://www.euglena.jp/companyinfo/sustainability/>

# Bangladesh 農家の所得向上に貢献

ユーグレナ社の「緑豆プロジェクト<sup>※1</sup>」が、国連開発計画（UNDP）の主導するビジネス行動要請（BCtA）に採択



## BCtA採択の意義

- BCtA<sup>※2</sup>は、企業のビジネスモデルと技術を活用し、**貧困層の成長を活性化**させるための取組で、**SDGs達成の促進が目的**
- 200を超えるBCtA賛同企業間のコラボレーションや、専門的なサポート等を受けることが可能

※1 バングラデシュの農民が育て、栄養価の高い食材として現地で食されている緑豆の生産性を日本の技術で安定的に向上させ、同国内で販売するだけでなく、日本に供給しようというプロジェクト

※2 2008年に発足した国連開発計画（UNDP）を含む6つの開発機関・政府が主導。長期的視点で商業目的と開発目的を同時に達成できるビジネスモデルを模索・促進

# 補足資料

# 会社概要

設立	2005年8月9日	
本店	東京都港区芝5-29-11	
資本金	73億1,814万円	2020年3月末
売上高	139億6,767万円	2019年9月期
従業員数	454名（連結）	2019年9月末
グループ会社	完全子会社7社、海外合弁会社2社（上海、ダッカ）	2020年5月15日時点
経営理念	人と地球を健康にする	
経営ビジョン	バイオテクノロジーで、昨日の不可能を今日可能にする	
上場市場	東京証券取引所市場第一部	
証券コード	2931	
株主数	86,009名	2020年3月末



# 連結損益計算書サマリー

(百万円)	2018/9期					2019/9期						2020/9期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	合計	1Q	一括費用 計上除く ※	2Q	3Q	4Q	合計	一括費用 計上除く	1Q	2Q	合計
<b>売上高</b>	<b>3,450</b>	<b>3,729</b>	<b>3,957</b>	<b>4,038</b>	<b>15,175</b>	<b>3,432</b>	<b>3,432</b>	<b>3,487</b>	<b>3,526</b>	<b>3,522</b>	<b>13,968</b>	<b>13,968</b>	<b>3,219</b>	<b>2,863</b>	<b>6,082</b>
直販	2,445	2,752	2,881	2,663	10,740	2,549	2,549	2,471	2,497	2,377	9,894	9,894	2,332	2,103	4,434
流通	390	400	458	423	1,672	405	405	379	335	299	1,418	1,418	234	231	465
OEM・原料・海外	553	499	510	717	2,279	358	358	470	555	541	1,924	1,924	524	406	930
その他	61	79	108	235	483	120	120	168	139	306	733	733	130	123	252
売上原価	841	946	1,078	1,355	4,220	858	858	1,000	1,018	1,134	4,010	4,010	878	824	1,702
<b>売上総利益</b>	<b>2,609</b>	<b>2,784</b>	<b>2,879</b>	<b>2,682</b>	<b>10,954</b>	<b>2,573</b>	<b>2,573</b>	<b>2,487</b>	<b>2,509</b>	<b>2,388</b>	<b>9,958</b>	<b>9,958</b>	<b>2,342</b>	<b>2,039</b>	<b>4,380</b>
粗利率	76%	75%	73%	66%	72%	75%	75%	71%	71%	68%	71%	71%	73%	71%	72%
販売費及び一般管理費	3,039	3,465	3,284	2,547	12,334	9,031	2,660	2,553	2,693	3,140	17,418	11,047	2,586	2,155	4,741
販売費	2,188	2,519	2,122	1,496	8,325	1,620	1,620	1,546	1,681	1,775	6,623	6,623	1,534	1,136	2,669
(内 広告宣伝費)	1,394	1,516	1,079	624	4,614	674	674	697	784	861	3,016	3,016	626	403	1,029
人件費	405	429	477	446	1,757	442	442	421	438	490	1,791	1,791	474	435	909
管理費	318	362	502	446	1,628	401	401	354	407	417	1,579	1,579	360	333	693
研究開発費	129	154	183	159	624	6,568	197	232	166	459	7,425	1,054	219	251	470
<b>営業利益</b>	<b>-430</b>	<b>-681</b>	<b>-405</b>	<b>136</b>	<b>-1,380</b>	<b>-6,458</b>	<b>-87</b>	<b>-66</b>	<b>-184</b>	<b>-752</b>	<b>-7,460</b>	<b>-1,089</b>	<b>-244</b>	<b>-116</b>	<b>-360</b>
<b>EBITDA</b>	<b>-288</b>	<b>-516</b>	<b>-182</b>	<b>371</b>	<b>-614</b>	<b>144</b>	<b>144</b>	<b>174</b>	<b>56</b>	<b>-507</b>	<b>-133</b>	<b>-133</b>	<b>-71</b>	<b>56</b>	<b>-15</b>
営業外損益	66	148	42	27	283	36	36	132	181	38	387	387	28	195	223
(内 助成金収入)	42	124	27	10	203	18	18	109	167	25	320	320	30	183	213
<b>経常利益</b>	<b>-364</b>	<b>-533</b>	<b>-363</b>	<b>163</b>	<b>-1,097</b>	<b>-6,422</b>	<b>-51</b>	<b>66</b>	<b>-3</b>	<b>-715</b>	<b>-7,073</b>	<b>-703</b>	<b>-216</b>	<b>79</b>	<b>-138</b>
特別損益	1	1	-1	-13	-12	0	0	2	5	-2,539	-2,532	-2,532	0	12	12
<b>親会社株主に帰属する 当期純利益</b>	<b>-462</b>	<b>-531</b>	<b>-373</b>	<b>113</b>	<b>-1,252</b>	<b>-6,495</b>	<b>-124</b>	<b>38</b>	<b>-81</b>	<b>-3,261</b>	<b>-9,799</b>	<b>-3,428</b>	<b>-253</b>	<b>109</b>	<b>-144</b>

## ◆参考指標

減価償却費	91.3	108.7	125.1	145.1	470.3	140.9	140.9	149.7	145.2	140.1	575.9	575.9	135.7	134.1	269.8
(内 M&A関連)	10.7	13.4	18.7	18.7	61.5	18.7	18.7	18.7	18.7	18.7	75.0	75.0	18.7	17.2	35.9
のれん償却額	50.9	56.8	97.6	90.3	295.6	90.3	90.3	90.3	95.1	104.9	380.6	380.6	37.8	37.8	75.7

※1 バイオ燃料製造実証プラントの建設関連費用: 6,370百万円

# 連結貸借対照表サマリー

(百万円)	2018/9末	2019/9末	2020/3末
<b>流動資産</b>	<b>8,362</b>	<b>11,183</b>	<b>10,476</b>
現金及び預金	4,427	7,833	7,112
その他	3,935	3,350	3,364
<b>固定資産</b>	<b>13,476</b>	<b>6,016</b>	<b>5,641</b>
有形固定資産	8,897	3,590	3,460
(内 建設仮勘定)	4,984	7	4
無形固定資産	3,777	1,649	1,526
投資その他の資産	802	778	654
(内 投資有価証券)	389	431	314
<b>総資産</b>	<b>21,838</b>	<b>17,199</b>	<b>16,117</b>
<b>負債</b>	<b>5,933</b>	<b>6,365</b>	<b>5,399</b>
流動負債	2,081	2,470	1,853
(内 短期借入金)	461	471	470
固定負債	3,851	3,895	3,546
(内 長期借入金)	3,389	3,190	2,957
<b>純資産</b>	<b>15,905</b>	<b>10,834</b>	<b>10,718</b>
株主資本	15,898	10,823	10,710
(内 資本金)	5,424	7,318	7,318
(内 資本剰余金)	9,080	11,880	2,224
(内 利益剰余金)	1,625	-8,225	1,263
その他	7	11	7
<b>負債純資産合計</b>	<b>21,838</b>	<b>17,199</b>	<b>16,117</b>

バイオテクノロジーで、  
昨日の不可能を今日可能にする

